

# サイジャーナル

月刊  
25-7・8  
第410号

日本サイ科学会 平成 25 年 7 月 1 日発行

本部 〒271-0047 千葉県松戸市西馬橋幸町41-506 郵便振替 00100-2-15344 日本サイ科学会  
電話 047-347-3546 FAX 047-330-4091 E-mail office21@psij.mail-box.ne.jp

<b>東 北</b> 〒981-0904 仙台市青葉区 旭ヶ丘1-36-1 アサノビル201号 佐佐木 康 二 ☎ 022 (279) 0908-FAX 022 (274) 0097	<b>中 部</b> 〒503-0981 大垣市松町1290 山 田 哲 三 ☎ FAX 0584 (91) 1192	<b>北 陸</b> 〒920-0864 金沢市高岡町12-45-1F ホリスティック健康科学研究所内 佐 藤 禎 花 ☎ 076 (234) 6634	<b>関 西</b> 〒659-0011 芦屋市六麓荘町 (事務局) 9-39 木 村 のり子 ☎ FAX 0797 (22) 6425	<b>九 州</b> 〒862-0976 熊本市九品寺 1-9-7 金 子 輝 夫
---	--	--	--	--

## 七月本部例会のお知らせ

### 千鳥学説を知るために

講師 酒向 猛氏  
(医学博士)

千鳥学説は千鳥喜久男博士が唱えた生物上の学説です。千鳥学説は正統の生物学者からは否定されていますが、その原理は東洋哲学とよく一致しており、東洋医学や自然医学を実践している人達の多くから支持されております。

千鳥博士はバスタールの実験により否定されている「生命の自然発生」を肯定し、さらに血液は骨髄で造られるという現代医学の定説である骨髄造血説を否定し、血液は腸で食物から造られるという「腸造血説」を唱えました。腸造血説は食物がいかに健康と大きな関係を持つているかを示し、薬物中心の現代医学に大きな疑問を投げかけています。

千鳥博士はノーベル賞候補にもノミネートされましたが、その学説があまりに定説とかけ離れているため誰も追試をする者がなく、

受賞を逃したという逸話が伝えられております。ある人は、千鳥は生まれるのが百年早過ぎたと評しました。今回の講演では千鳥学説の真髄を皆様にお伝えする予定です。

※酒向猛氏はガンの専門医でもあり、「ガンの克服術」という著書を出されております。質疑応答時間も十分あり、医学健康関係も含めてお話が聞けますので、会員の皆様はご友人・知人をお誘いして、是非ご参加願います。

### ●酒向猛氏のプロフィール

1950年生まれ。岐阜県恵那市出身。1976年、順天堂大学医学部卒業。1986年、名古屋大学大学院医学研究科卒業、岐阜県立多治見病院へ赴任。1988年、医学博士。

岐阜県立多治見病院、外科部長兼中央手術部部長を経て、2008年よりセントマーガレット病院 統合医療科部長。

趣味…空手二段、神社仏閣巡り

日時 平成25年7月13日(土)

午後1時半～5時

会場 北とびあ7階701会議室  
交通 JR京浜東北線王子駅下車  
徒歩2分、ホーム最北端(赤羽寄り)の階段を下り改札口を出て見える高層ビル

会費 会員 二〇〇〇円  
一般 三〇〇〇円  
学生 一〇〇〇円

### 今月号の記事

- ◎ 七月本部例会のお知らせ
- ◎ 10月第23回全国大会発表募集
- ◎ 御寄付御礼
- ◎ 第19回宇宙生命研究分科会予告
- ◎ 九月本部例会予告
- ◎ 関西サイ科学会七月例会予告
- ◎ 関西サイ科学会九月例会予告
- ◎ 六月通常総会報告
- ◎ 九月本部例会報告
- ◎ 第三七六回関西サイ科学会報告
- ◎ 第三七七回関西サイ科学会報告
- ◎ 本部例会ビデオ映像の販売
- ◎ オープの形成過程(1)

※8月は本部例会は休会となりま  
す。九月本部例会予告は次頁に  
掲載されております。

## 平成25年日本サイ科学会 第23回全国大会発表募集

毎年の重要な行事である全国大会が、今年も10月13日(日)北とぴあ7階第二研修室にて、開催されます。会員の研究発表、シンポジウム(テーマは「サイと自然治癒力」が予定されておりませんが、会員の皆様には積極的な発表ご参加を期待しております。

これまでの研究での新しい発見、現在もしくは近いうちにデータ取りをしてまとめたこと、偶発現象(UFO、心霊現象等)の目撃と原因の推測・解明、様々なサイ現象の仮説(理論)など「サイ」に関連することなら何でも結構です。ご自分の考えや研究成果をまとめて、発表して頂きたいと存じます。

8月末までにタイトルと簡単な内容(200字くらい)をメール、またはFAX、ハガキでお送りいただき、一応審査させていただきます、通りましたら9月15日までに原稿ファイルをメール添付等で戴

きたいと思えます。原稿の書式は後でお知らせ致します。

※第23回全国大会の詳細なプログラム、講演者・シンポジウムパネル等は「サイジャーナル9、10月号」でお知らせ致します。

### 「心を科学する博物館」と 一般の御寄付御礼

(6/1受領分まで)

金一千元也 信太 民久 様  
金一千元也 伊藤 一義 様

### 第19回宇宙生命研究分科会

第7回 UFO・オーブシン  
ポジウム

日時 平成25年7月28日(日)  
午後1時～5時30分  
会場 品川健康センター第3会議室  
品川区北品川3・11・22

03・5782・8507

交通 京浜急行新馬場駅徒歩2分

JR京浜東北線大井町駅東口から東急バス渋谷谷駅行で「新馬場駅前」下車

会費 一般 五〇〇円

会員 一〇〇円(日本サイ科学会・サトルエネルギー学会・太陽の会)

※会員以外の方の参加も大歓迎

### 九月本部例会のお知らせ

ブラジルの奇跡のヒーラー  
ジョン・オブ・ゴッド

講師 奥野 節子氏

ブラジルの首都ブラジリアから車で一時間半ほどの小さな町アバデアニア。そこには、ブラジルはもちろん、アメリカ、ヨーロッパなど世界中から多くの人たちが、奇跡のヒーラーと呼ばれるジョン・オブ・ゴッドに会いにやってきました。

彼の療養所である聖イグナチオの家(通称カーサ)では、「医師か

ら見放された癌が治った」「車椅子から立ち上がり、歩けるようになった」などの話が後を絶ちません。

2008年に初めてカーサに滞在するまで、私自身、「奇跡の癒し」について疑いの気持ちを抱いていました。しかし、滞在中、理性では到底理解できないことを次々と目撃し、彼の治療が本物であると確信せざるを得なかったのです。

本講演では、これまで聖イグナチオの家を5回訪問した経験をもとにして、ジョン・オブ・ゴッドとはどんな人物か、アバデアニアと聖イグナチオの家の様子、カーサで行われているヒーリングとその実例についてお話します。

※スピリチュアル、精神世界関係の訳書を多数出され、その著者たちにも会ってお話しされている奥野氏の貴重な講演会です。質疑応答時間も十分ありますので、会員の皆様はご友人・知人をお誘いして、是非ご参加願います。

### ●奥野節子氏プロフィール

高校の英語教師を経て、ジョージ・ワシントン大学大学院修了後、ニューヨークで米企業に勤務。帰

国後、精神世界分野の翻訳者となる。訳書に、『死ぬこと』の意味』(サンマーク)『喜びから人生を生きる!』(ナチュラルスピリット)『ジョン・オプ・ゴッド』『オーブは希望のメッセージを伝える』『運命を書き換える前世療法CDブック』『100の夢辞典』(以上、ダイヤモンド社)など多数。

日時 平成25年9月14日(土)  
午後1時半~5時

会場 北とびあ7階701会議室  
交通 JR京浜東北線王子駅下車  
徒歩2分、ホーム最北端(赤羽寄り)の階段を下り改札口を出て見える高層ビル

会費 会員 二〇〇〇円  
一般 三〇〇〇円  
学生 一〇〇〇円

関西日本サイ科学会  
七月例会のお知らせ

神様がいるぞ・続編

講師 池田 邦吉氏

日時 平成25年7月27日(土)  
午後1時半~5時

会場 大阪科学技術センター  
B一〇二号室  
交通 地下鉄四つ橋線本町駅下車  
北へ徒歩5分 靱公園内

会費 会員 二〇〇〇円  
一般 三〇〇〇円  
学生 一〇〇〇円  
問合せ0797・22・6425  
関西日本サイ科学会事務局まで

関西日本サイ科学会  
九月例会のお知らせ

音の魅力に挑戦

講師 大峰 かず子氏

日時 平成25年9月21日(土)  
午後1時半~5時  
会場 大阪科学技術センター  
六〇五号室  
交通 地下鉄四つ橋線本町駅下車

北へ徒歩5分 靱公園内  
会費 会員 二〇〇〇円  
一般 三〇〇〇円  
学生 一〇〇〇円

問合せ0797・22・6425  
関西日本サイ科学会事務局まで

六月通常総会報告

日本サイ科学会

会長 佐々木 茂美

◎平成24年度本部事業報告

1. 会員の現状

(平成25年5月末日現在)

賛助会員	0名
維持会員	4名
正会員	183名
学生会員	28名
準会員	61名
合計	276名

2. 講演会、研究集会

本部は10月の「第22回全国大会」を含み、計13回の集会を開催した。

◎本部例会・大会(敬称略)  
期日 講演者 講演タイトル  
平成24年

- 4月14日(土) ロン薄葉氏、川崎利男氏「オーブ研究のその後」
- 5月12日(土) 徳永康夫氏「命とソマチットと般若心経の探検」
- 6月10日(日) 松永修岳氏「密教開運術 強運の成長戦略提言 氣を高めれば運はやってくる」
- 7月14日(土) 中島敏樹氏「水と珪素の集団リズム力」
- 9月8日(土) ホンマシユウジ氏「未曾有の天災・人災を目の当たりにして、サイ科学は何ができるのか!」
- 10月14日(日) 第22回全国大会 シンポジウムテーマ「コンタクト」
- 11月10日(土) 藤森博明氏「氣(生命エネルギー)の実在と能力」
- 12月8日(土) 忘年会も兼ねた会員の体験意見発表と討論の会
- 平成25年
- 1月12日(土) 志賀一雅氏「a波のヒーレンシーについて」
- 2月9日(土) 宇治橋 泰志氏「疾病を根本から改善する 新治療法を求めて」

## ◎分科会

## ●宇宙生命研究分科会(阿久津淳)

平成24年  
7月29日(日)第16回「第6回 UFO&ORBシンポジウム」  
12月21日(金)第17回「第6回アセンション・シンポジウム」  
平成25年  
3月31日(日)第18回「第5回ヒポクラテス・シンポジウム」

## 3. 総会

平成24年6月10日  
北とびあ902会議室で開催

## 4. 全国理事会・評議員会

平成24年6月10日  
北とびあ902会議室で開催

## 5. 本部理事会(第169回〜第176回)

4月、5月、7月、9月、11月、12月、1月、2月と8回開催した。

## 6. 出版物

・「サイ科学」第34巻第1号を発行した。  
・「サイの広場」は休刊(「サイ科学」と合本)した。  
・「サイジャーナル」第403号か

ら第408号までを発行した。

## ◎平成25年度本部事業計画

(1) 10月13日(日)に全国大会(シンポジウムテーマ「サイと自然治癒力」)を開催する。  
(2) 月例会を9回(4、5、6、7、9、11、12、1、2月)開催する。  
(3) 分科会を3回(7、11、3月)開催する。

(4) 本部理事会、全国理事会評議員会を開催する。

(5) サイジャーナルを6回発行する。

(6) 「サイ科学(+サイの広場)」を発行する。

(7) 公式サイトを運営する。

(8) 「心を科学する博物館」の資料を整備する。

(9) その他

## ○活動方針として

(1) 刊行物に種々の分野の解説・応用や新鮮な情報を増やす。

(2) 会の活性化を図るため、例会等でアンケートを実施活用する。

(3) インターネットの公式サイトやメイリングリストを活用する。

(4) 雑誌等の告知欄やメールマガ

ジンに行事の予告を載せていく。  
(5) 地方日本サイ学会との連携を深める。

(6) 地方からも講師を招く。

(7) 理事や若手の幹事(理事候補)、評議員を増やす。

(8) その他

## ●地方日本サイ学会

東北日本サイ学会

会長 佐佐木 康二

## ◎平成24年度事業報告(敬称略)

平成24年

4月14日 第182回研究会総会  
平成23年度事業報告、平成24年度事業計画

「我々は悟るまでストレスが続くようプログラムされている!」

佐佐木康二

4月29日 講演会(福来心理学研究所、仙台瞑想研究会と共催)

「上の次元との繋がりをよくする」  
佐佐木康二

5月5日 講演会(福来心理学研究所、仙台瞑想研究会と共催)

「マトリックスの呪縛を解く」  
門馬全一

6月9日 第183回研究会

「光―意識変換」佐佐木康二  
8月11日 第184回研究会

「肩こりと「愛のもつれ」と憑依霊の「物理」第2弾」佐佐木康二

8月13日 講演会(福来心理学研究所、仙台瞑想研究会と共催)

「スカラー波カメラ実験会」  
佐佐木康二

10月13日 第185回研究会

「禁止令をクリアすると真の霊能が得られる」佐佐木康二

12月8日 第186回研究会

「無望礙の度合いが生体のゆれでわかる!」佐佐木康二

平成25年

2月9日 第187回研究会

「透視力もついてくる量子論的宇宙意識法」佐佐木康二

## ◎平成25年度事業計画

東北日本サイ学会は、創始者岡田幸千生が掲げた目的、「聖人及び超能力者の先人たちの出来るだけ深く探求して、誰でも本来的に持っているはずの超能力を万人に成長させて人類の活動能力を本質的に高めること」を今後も目指し、次の事業を行う。

1. 定例研究会の開催

定例研究会を偶数月第2土曜日に開催する。先人や研究者の成果を学び、また各人の知恵と知識を持ち寄る。サイ科学関係の著名人の講演会等は計画としては準備せず、機会がある折りに考慮する。

2. 「東北日本サイ科学会研究抄録」の編集

3. 長期研究テーマの推進

サイ現象の観測量化：「スカラ一波カメラ」等の開発、気・意識の種類の見分け方、「念写」写真・「オーブ」画像等の分析・検証（福来心理学研究所との共同研究）、意識純化・宇宙意識への目覚め、地震予知、数秘術・秘数の科学性の研究、フリー・エネルギー装置の研究、過去世・霊性・霊能の研究

4. 講演会等の開催

「スカラ一波」「念写実験」等のテーマで5月、8月に講演会を開催する（福来心理学研究所、仙台瞑想研究会と共催）

5. 会推進スタッフの充実、本部会員・会員の勧誘

6. 「岡田文庫」（福来心理学研究所との共同事業）及びビデオ資料等の閲覧サービス・管理

中部日本サイ科学会

会長 山田 哲三

◎平成24年度事業報告

●研究集会Ⅰ

日程 平成24年5月19日（土）

会場 つるまい会館

会員3名の研究・体験発表

●研究集会Ⅱ

日程 平成24年9月15日（土）

会場 つるまい会館

会員3名の研究・体験発表

◎平成25年度事業計画

内容 会員数名の研究・体験発表を中心に出席者で勉強会を行う。

日程

第1回 平成25年5月11日（土）

会場 つるまい会館

第2回 平成25年9月予定

会場 つるまい会館

第3回 平成26年3月予定

会場 つるまい会館

北陸日本サイ科学会

会長 佐藤 禎花

◎平成24年度事業報告（敬称略）

平成24年5月27日（日）

第1部「ローマ法王に米を食べさ

せた男」高野誠鮮（羽咋市役所員・住職）

第2部「宇宙政治∞（ムゲン）道

場」竹本良（科学問題研究家）

第3部 トークバトル第二弾

飛鳥竜一（フリーランス・科学

ジャーナリスト）×竹本良

平成24年11月4日（日）

テーマ「祈りのエネルギーについて」

講師 清田 益彰（スプーン曲げ超

能力からおのりぐへ）

講師 高野 誠鮮（日蓮宗 妙法寺

第41世住職）

◎平成25年度事業計画

平成25年4月28日（日）

テーマ「氣エナジーヒーリング」

・「アロマと氣エナジー」

講師 田村 由美子（ホリスティ

ック健康科学研究所講師）

・「皮膚と氣エナジー」

講師 丸谷 恵子（ホリスティ

ック健康科学研究所講師）

◎平成25年度計画 7月、9月、12

月の予定（内容、詳細は未定）。

※長野県伊那市において、北陸日

本サイ科学会の分科会として、

「氣の健康研究会」を6月発足予定。

※後半は次号に掲載します。

### 九月本部例会報告

未曾有の天災・人災を目の当たりにして、サイ科学は何かできるのか!?

講師 ホンマ シュウジ氏

（株式会社ビジョンプラス

エグゼクティブ・プロデューサー）

◎ゲスト講演

井戸 理恵子氏

（多摩美術大学講師・民俗情報工

学研究）

椿 真由美氏

（スピリチュアルカウンセラー）

私は自称も他称も含めまして、  
「オカルティスト」と呼ばれてお  
りますが、「オカルティスト」とし  
て震災復興にどういった貢献がで  
きるのか、ということをずっと考

えておりまして、その中でいろいろ不思議なご縁がありまして、今日ご紹介致しますゲストのお二人は知る人ぞ知る「能力者」です。

これまでにお二人の方々と出逢いがあり、いろいろなお話の中からお聞きのこと、分かったことがありまして、その辺のお話を今日はさせていただきます。

僭越なテーマですが、サイ科学の復興支援ができないものかな、ということをご考察してみました。



井戸さんのほうからは、「先人の伝言 大震災と金華山信仰」というテーマで、東北地方の神々の歴史と、大震災とその中心にあった金華山についてお話しいただきます。

椿さんからは、「大震災の前後、人々の心と体に何が起きたか」というテーマでお話しいただきます。

椿さんは、普段は肩書きのない方で、スピリチュアル・カウンセラーリングのようなことをしておりまして、何十人という相談者の方々の震災前、震災後の変化、及び能力者として自分が感じられたこと、震災後に感じたこと、また放射能が見えるのなら、どういうふうに見えるのか、ということをお話しさせていただきます。

私自身の自己紹介を致します。日本サイ科学会の公式サイトでも、「心を科学する博物館」の「重要・貴重事実データベース」に紹介されておりますが、1990年代初頭にTBSテレビで「子供たちの未知能力」のシリーズを制作しておりました。そこでいろいろな実験を行い、子供たちには潜在能力が存在し、それは訓練により伸ばせるということを番組にしました。最近ではジャーナリストの森達也氏が「オカルト 現れるモノ、隠れるモノ、見たいモノ」という本を出されまして、この中にも私のことが書かれています。また、明

治大学の石川幹人先生がこんど出される「超心理学 封印された超常現象の科学」には、NHKのドorama「七瀬ふたたび」の科学監修を担当されていることが書かれており、私も能力者へのインタビュー等で協力しております。

私は宮城県石巻で生まれ育ち、高校までおりました。その石巻が東日本大震災で甚大な被害を受けました。

※地元の「三陸河北新報社」の東日本大震災の写真を紹介し、解説される。

東日本大震災の死者・行方不明者の数は、宮城県が突出しており、その中でも石巻は三千五百人を超えております。

この写真は本間家が檀家のお寺ですが、家のお墓の周囲も他の墓石や住宅の家財道具とか衣服がぐじゃぐじゃになっています。

宮城県のこの辺りは以前からお線香の消費量が全国でも一番の地域でして、ご先祖様への法事等が熱心に行われているそうです。そういう地域であるのに、家のお寺のように壊滅した墓地が沢山ある

ということとで、先祖を大切にしようという風習も震災の後はやる場所が無くなり、さらに震災で亡くなった家族を埋葬する場所が無くなるということ、信心深い人々にとっては非常に心の負担になりますし、心理的ストレスがものすごいのではないかと思われれます。だから、誰も言っていないのですが、この辺のケアを何とかすることが大事なことはないかと思えます。慰霊碑の建立というものも、単に大勢の人が亡くなったから建てるということではなく、皆で悲しみをぶちまける場所、皆で泣ける場所として必要なのではないかと思いました。

実は震災以降、特に今年（2012年）になってから、非常に怪談話が出ております。町の中はかなり片付いて、ほとんど建物がない非常にスカスカな状態になりましたが、中心市街地は夜は本当にゴーストタウンになります。人口が一人くらい減ったのですが、あちこちで幽霊やお化けが出るとか、タクシーで人を乗せたのに移動後乗っていないかった、とかいうお話が一杯あります。確かに霊的なものを感じる方が、石巻辺りに

行くと大変だと聞いております。

家族を亡くしたり、墓地を無くしたりして、心の拠り所を失った人々に対しての支援のあり方など、これはひよっとすると我々オカルティストの仕事ではないかな、というふう勝手に思ったのが始まりです。

今年の7月11日に京都大学「このころの未来研究センター」(京セラの稲盛氏の寄付で設立)で、『第3回「東日本大震災関連プロジェクト」このころの再生に向けて」シンポジウム・研究会』が開催され、宗教学者や民俗学の研究者が発表されました。

その中で東北大学教授で宗教学民俗学を研究されている鈴木岩弓先生のお話が印象に残っております。仙台空港が壊滅した状態は皆様もテレビでご覧になっていると思いますが、海と仙台空港の間に、海抜2メートル位の下増田神社という小さな神社があります。海と空港の間にありながら、この神社が津波の影響を全く何も受けなかつたんですね。飛行場に逃げた方がおっしょっていましたけど、「波が、ここをよけてきていた」と言うのですね。ある意味では、一つ

の奇跡みたいな感じで。神社の裏には石塔が建っているのですが、これは昔のまま全然、動いていないということなんです。そういうことで、ここは結構ありがたい神社だと言われています。

これと同様な「波分神社」などと呼ばれる神社は三陸沿岸も含めて全国各地にあるのですが、どうも昔の人はどういいうわけかそういうことが分かっている、そういう場所に神社を造ったようです。

何回も大地震・津波を経験した経験値からそこが大丈夫だということでも神社が建てられた可能性もあります。私が昔の能力者が「ここだ！」と言って神社の場所を決めたのではないかと思っております。

中国の漢方薬が効くか効かないか、についても経験値から分かったのか、能力者が最初から分かっていたのか、についても私は後者だと思えます。

そういう人間の不思議な能力は間違いないであって、それがどういいうメカニズムでどういいうことで動いているのかを研究するのが、日本サイ科学会の集まりだと思うのですが、何かメカニズム等を言っ

ている間に、どうもそれよりも臨床・応用に入らなければいけないのではないかといいことで、これまで日本サイ科学会の話題にはあまりなっていないであろう民俗学から、様々な事例を紐解いてそれを科学するという新しいアプローチの仕方をやっていらつしやる井戸理恵子さんのお話を皆様にお聞きいただきたいと思えます。

井戸さんは多摩美術大学の講師をなさっていて、実は知る人ぞ知る大変な能力者でもあります。

#### ◎井戸理恵子氏の御講演

私は多摩美術大学の建築学部の方で教えておりまして、主に教えられておりますのは、日本の先人たちが残した様々な技術を、迷信とかそういったもので片付けるのではなく、その中にこそ普遍的な意味があるということを学生たちに教えております。建築ですので実際に宮大工さんたちが遺している技術とか、様々な日本の古くからの伝統技術の中に遺っているものを紐解いているというようなことを今やっております。

私の昔のボスであった名古屋大

学の武田邦彦先生が最近、原発事故関連のコメントターでよくテレビに出ておりますが、武田先生が芝浦工大の教授をやっていた頃、「井戸さんの研究はただの民俗学ではなく、民族情報工学だ」と言われました。

ホンマさんとは阪神淡路大震災の頃に会ったと思うのですが、その頃から地震と日本の信仰とか、地震のある場所に遺っている様々な伝承を研究しております。今日はその流れの中で、貞観の震災と金華山信仰について、お話しさせていただきます。

その前にどういったアプローチをしているかを見ていただきたいと思えます。

もともと日本人というのは、どんなに日本人としての記憶を失っても、先人たちは神社の祠であるとか、しめ縄であるとか、様々な所にいろいろなる形で「印」というものを遺しております。この印を見過ぐすのではなく、その中にか共通項を見いだすことができなにかということはどういった研究をしております。

この印というものは、実は生命

を流れさせてくれるもので、今度の震災もそうですが、例えば危険に遭ったときに本能的にその印からいろいろな情報をとらえることよって、生き延びることができるといったように、先人たちは後生の人々のために沢山の印を遺していることが見えてきました。

もともと文化というものは、風土から成り立っていて、風土を読み解いていくと、なぜここにこういう技術が導かれたのかというのが見えてきます。それが土地の力となり、土地のアイデンティティとなつて、今あるということなのです。

日本という国の特色は、環太平洋火山帯の真ん中に位置しているというならば地雷の上に生きているような国であります。なぜこの地雷の上にあるような土地を我々の祖先たちがわざわざ選んで、住み着いてきたのかということを考えることは非常に意味のある事だと思えます。

この国は国土、風土、言語、民族、そこで育まれた文化というものが、すべてこの島国にしかない、という特徴をもっております。その国が数千年続いているということでも非常に我々が誇るべきことで

す。

國學院大学の学生時代から、足を使ってフィールドワーク重視で民俗学の研究を続けて参りました。そうすると、文字で書かれたもの以外に本質的なものがあることに気付きました。本当の事ほど、絶対に忘れてはいけない事ほど、日本人は文字ではなく、「ことば」や「形」にして遺しております。



中国の焚書坑儒の例もありますように、文字にしたものは文字にした時点で安心してしまい、燃やされて無くなってしまうですが、「ことば」で受け継がれたものはずっと伝えなければいけないと思うわけです。

それでは、今日の主題である『天

災と「自然と共に生きる技術」についてお話しさせていただきます。

貞観元年（859年）に清和天皇が9歳で天皇に即位します。天皇が幼かったので、藤原良房が摂政に就きます。ところが国をマツル人である天皇に力がなかったため、貞観年間（859～877）には大地震や富士山も含めた火山の爆発が相次いで起こっています。

伊勢神宮の式年遷宮の前後の869年、陸奥国東方沖の海底を震源域として、3・11東日本大地震に匹敵する大地震と大津波が発生しました。実は1993年の伊勢神宮の式年遷宮の2年後の1995年に阪神淡路大震災が起こり、2013年の式年遷宮の2年前に東日本大震災が起こっています。

国をマツル人である天皇に力がないから天災が起こるのだということ、貞観年間に日本全国の神社・仏閣におふれを出して、天皇の名譽をもってマツレということを言います。このときまで国の管理の神社・仏閣は無かったのですが、このときの神社・仏閣と同じ所にある現代の神社・仏閣は東日本大震災の津波にも流されず

に残っております。名称は同じでも貞観年間の場所から移した神社・仏閣は東日本大震災で被害を受けているものもあります。

貞観の大地震が来る前に、非常に興味深いのですが、金華山近くの女川地域で震災が来ることを予見した「童話」が残っています。その歌の中に「辰年旧曆水無月、巳の日が三度ある年に金華山に弥勒菩薩が降りて来て、国を変えていく」という内容があります。今年（2012年）も同様に辰年で6月は巳の日が3回入り、こういう年の前後には昔から非常に急激な変化があったということがずっと歌われ継がれています。

東日本大震災の震源地に近い金華山の島は700年代聖武天皇の頃から祭られたという記録があり、それ以前から信仰の場所でありました。

金華山の周囲は九州の玄界灘とともに、日本の海の中でも最も荒れるところで、なかなか島が人を近づけないということ、そういうところに神を祭るといような信仰があったわけです。



弥勒菩薩というと、一般的に隆寺の細身の美しい弥勒菩薩を頭に想定する人が多いと思いますが、昔の弥勒菩薩は布袋様のようにぶつくりした姿をしています。これは食べ物に一生困ることがないという形を表しています。ですから飢饉とか日照りが続いて、食べ物とかが与えられないと生きていけないので、弥勒菩薩が降りてくると非常に有り難いのです。この弥勒菩薩が降りて来て私たちに何を示すかといいますと、世の中の変革を示すと言われています。

前回の弥勒菩薩が降りたのは1928年の辰年で、1929年に世界大恐慌が起り、金融の仕組み等が大きく変わりました。

貞観地震後の変革は、日本の文化の醸成につながり、神国意識・平安祭祀制の確立、陰陽道・修験道の形成、国風文化・日本の文化の醸成(彫刻、建築、絵画、仮名文字)等、日本文化のすべての根底にあたる部分が形成されました。

今忘れ去られてしまったことの中で一つ図にしてみますと、マツリゴトというのはもともと「政」という字ですが、「お祭り」のマツ

リは人の心の中です。人の心の中すなわち意識にあることが未来を作っていくわけです。人の心の中は見えないからとして、あまり注目を集めないのですが、一部見ているところは何かというと、例えば占いという行為です。占いというのは「裏を垣間見る」ということであって、人の心をいかに見ていくか、人の心の中にあることを統計学的に見ていくと、非常に現実味があるところが実際に未来になるわけです。

昔の人々が集合的無意識の中で「鬼」とか「闇」とか「神」と捉えていたものをマツル(祭る)ことによつて、不安を無くし、未来に安心感を持たせるための心のバランスをとる行為でもあるわけです。ですから大地から利益を受ける、受けた分を大地にお返しする、というように陰陽のバランスをとる場所が昔から神社・仏閣という場所であったのではないかなと思います。

最後に、今回の大震災で被災された人々のその後を見ておりましても、やはり「供養」というのは、亡くなった方々がああ世で幸せに

暮らしてほしいという祈りもありますがそれ以上に、残された人々の心を納める精神的ケアという意味でも非常に重要な事だと再認識致しました。(つづく)

### 第三百七十六回関西日本サイ科学会研究会報告

#### 千鳥学説とは

講師 酒向 猛氏  
さこう たけし

とき 平成25年3月16日(土)  
ところ 大阪科学技術センター

#### 酒向猛氏 略歴

1950年生まれ。岐阜県恵那市出身。1976年、順天堂大学医学部卒業。1986年、名古屋大学大学院医学研究科卒業、岐阜県立多治見病院へ赴任。

1988年、医学博士。岐阜県立多治見病院外科部長兼中央手術部部長を経て、2012年より千葉県松戸市の島村トータル・ケア

クリニックに副院長として勤務。千鳥学説の研究者。千鳥学説研究会理事

千鳥学説とは、生物学者で岐阜大学教授であった千鳥喜久男博士(1899-1978)が唱えた生物上の学説である。現在のところ異端の学説として正統の生物学者からは無視されているが、その学説は東洋哲学の根本原理とよく一致しており、東洋医学や自然医学を実践している人達の多くから支持されている。

千鳥は分析と分類を主とする科学と、総合と統一を旨とする哲学は対立するものではなく、一体となつて哲学として成長脱皮するべきであると主張し、科学的主張と哲学的主張が混然一体となつた学説を唱えた。

このため生命現象の物質的な側面の分析と分類に明け暮れる現代の生物学者たちは千鳥学説を理解することは困難で、千鳥学説を疑似科学であると非難し無視している。しかし彼らは千鳥学説の表面の主張をみて批判しているだけであり、実際に千鳥の学術論文を読んでいくわけではない。

千鳥の研究は鶏の生殖腺の細胞

分化（細胞が他の細胞に形を変え  
ること）の研究から始まっている。

千島は鶏の生殖腺の赤血球（核  
を持つ）が様々な細胞に分化して  
ゆくこと発見し、1947年博士  
号を取得するための学位論文とし  
て発表した。しかし、この論文は  
10年間審査を引き延ばされたのち  
に取り下げられることを要求された。

赤血球が他の細胞に分化するこ  
とはありえないと反論されたため  
であった。しかし千島はさらに研  
究を進め、赤血球はあらゆる細胞  
に変化する根源となる細胞である  
こと発見した。

これが「赤血球分化説」である。  
現代生物学では赤血球は酸素運搬  
のために専門化してこれ以上変化  
しない成熟した細胞であるとして  
いるが、千島は赤血球はあらゆる  
細胞に分化する原始的細胞である  
としたのである。

さらに、千島はあらゆる組織細  
胞はある条件のもとでは「あらゆる  
細胞に変化し最終的には赤血球  
まで逆分化（逆戻り）する」と主  
張した。

これが千島の「赤血球と組織の  
可逆的分化説」で、このような現  
象はあり得ないと否定されている。

しかし、最近のiPS細胞の発見  
は「あらゆる細胞はあらゆる細胞  
に変化する潜在能力を持っている」  
可能性を示唆しており、千島の学  
説の正しさ証明するものである。



現在の生物学では、生命の自然  
発生説は1861年のパスツールの  
実験により否定されているが、  
千島は生命の自然発生を肯定し、  
生命を持たない有機物質の集合か  
ら生命を持った細菌類が発生し、  
さらに細菌類が集合して細胞を形  
成すると主張している。

これが千島の「細胞新生説」で  
ある。さらに千島は、血液は骨髄  
で造られるという現代医学の定説  
である骨髓造血説を否定し、血液  
は腸管で食物から細胞新生で造ら  
れるという「腸造血説」を唱えた。

腸造血説は食物がいかにか健康と  
大きな関係を持つているかを示し、  
薬物中心の現代医学に大きな疑問  
を投げかけている。

現代医学では癌とは突然変異を  
起こした細胞が際限なく細胞分裂  
を繰り返す疾患であると定義して  
いるが、千島は癌細胞は汚れた赤  
血球が集合して発生すると現代医  
学の定説を否定している。

千島は遺伝学や進化論において  
も現代生物学の定説を否定してい  
る。現代の正統遺伝学で否定され  
ている獲得形質の遺伝を認めてい  
る。

進化論においては弱肉強食の自  
然淘汰が進化の原動力であるとい  
うダーウィンの進化論を否定し、  
種類の違う生物同士が協力して共  
生することが生物進化の原動力で  
あると主張している。

千島は独自の生命発展の根本原  
理として、「すべての物質は集合  
して融合し分化発展する」と説き、  
その原動力は愛と呼べるような力  
であると主張した。

千島は、生命は少し歪みを持つ  
た調和の状態を保ちながら周期的  
な螺旋を描きながら発展すると考  
えている。

千島はノーベル賞候補にノミネ  
ートされたが、その学説があまり  
に定説とかけ離れているため誰も  
追試をする学者がなく受賞を逃し  
たという逸話が伝えられている。  
またある人は、千島は生まれる  
のが百年早過ぎたと評した。

千島学説は以下の8つの原理か  
ら構成される。

1. 赤血球は体細胞の母体である  
（赤血球分化説または赤血球一  
元論）  
赤血球は様々な体細胞が分化す  
る母体である。
2. 体細胞と赤血球は可逆的に分  
化する  
栄養不足や大量出血後などの病  
的状态のときは、体組織の細胞  
から赤血球への分化が見られる。
3. 病原体は自然発生する  
バクテリア・ウイルスなど病原  
体は、親がいなくとも有機物の  
腐敗の状態から、その有機物を  
母体として自然に発生する。
4. 細胞新生説  
細胞は段階を踏んだ細胞分裂に  
よって増殖するのではなく、5  
つの形態で新生する。
5. 造血器官は小腸絨毛である

骨髓を造血器官として認めない。骨髄造血説には矛盾があり、造血器官は小腸の絨毛である。

6. 獲得形質は遺伝し、生殖細胞は血球に由来する

生物が生まれてから一生の間に、その環境によってはぐくまれた形質は子孫に遺伝する（獲得形質の遺伝の肯定）。また、精子や卵子などの生殖細胞は体の組織とは別物ではなく、赤血球が変化してできる（生殖細胞の血球由来説）。

7. 従来の進化論の否定と共生説の提唱

生物進化の最も重要な要因は、環境に適応した強い生物が生き残るといふ「適者生存」ではなく、同じ種類あるいは違った種類の生物の助け合いという共生現象である。

8. 生命弁証法

当該人の用いる独自の弁証法（生命弁証法）は、唯物弁証法と唯心弁証法を止揚し統一したものである。

千鳥学説は統合科学への可能性がある。

☆

☆

国会でもとりあげられた千鳥学説について講演して頂いた。すなおに考えれば「赤血球分化説」が当たり前で断食等の日常経験とも一致するようである。学会の先生方はどうしてすなおになれないのだろうか。

当日の参加者は会員14名、非会員23名、合計37名でした。今回のカセットテープは2000円です。事務局(0797・22・6425)まで

(関西日本サイ科学会会長

河野 明夫)

◆ ◆

第三百七十七回関西日本サイ科学会研究集会報告

根源の音―声―に出して歌う和歌

講師 伊藤 一夫氏

とき 平成25年4月20日(土)  
ところ 大阪科学技術センター

伊藤一夫氏プロフィール

星と森披講学習会名誉会長。星と森披講学習会は宮中で行われている和歌の披講を民間において研究実践する会として平成16年に立ち上がりました。宮中における重要儀式のほとんどを担当した中島宝城先生、聖徳大学 青柳隆志教授、早稲田大学 兼築信行教授などの陣容でスタートし、今に至ります。伊藤一夫氏は初代会長、現名誉会長。また、「マドモアゼル・愛」のペンネームで多方面で活動中。



人はどの国の赤ちゃんでも生後一歳までは母音言語を共通して発声します。そこにこそ人種民族を超えた命の言葉があります。

唯一母音を言語に残した日本語の特殊性とその可能性についてまた、それがもつともすぐれた形で表現される和歌について伺いました。

音楽にはいろんな世界があります。失恋して悲しみに浸った時、本当の悲しみ、苦しみの時はクラシック音楽よりも演歌の方が心に響いた経験があります。自分の未来がある時はクラシックはよいのです。

日本語と外国語には大きな差があります。母音を閉じ込めているのが日本語です。

日本語の音はすべて母音構造です。昔の母音は7、8あったといわれます。

古代ユダヤは書体に母音を省いたようです。どの民族の言葉も、言葉の最後を伸ばせばなんらかの母音になります。なので、言葉の意味を伝えるには、母音の伸ばしを省いたほうが効率がよくありません。子音重視で行く方が多くの意味を効率よく伝えられるわけです。それでほとんどの言語が子音重視となっていたのかもしれませんが。このように言語学的には日本人

と外国の差は明らかです。

日本語はひとつひとつの発音に、必ず、母音が絡みます。

母音のみの言葉もあり、多くは子音と母音が組み合わさった構造となっております。

角田理論によれば日本人は虫の音や風の音、水の音など、自然界の音を左脳で聞くといいいます。風が何かを伝えるなど日本語は自然を表現するのにふさわしい言葉です。日本人は母音が左脳に入ってくるからでしょう。

この言語の特質は一つの限界を超えるもので本質論のように思われまます。私たちは母音で自然に戻れまます。日本人以外の場合、ほとんど、自然界の音を右脳で聞きます。右の脳は無意識の脳であり、自然界の音を雑音として切り捨てます。実際に虫の鳴く音などに気づきにくいようです。これはどちらが優れているとかいうものではなくて、違いとして考える必要があると思えます。

日本人の脳は、自然の音を言葉として捉える。日本人以外のほとんどの脳の場合は、それらを雑音として処理する。この違いはかな

り大きいと思います。自然観、情緒、文化、芸術、人間性に、大きな違いを生じたとしても不思議なはずですよ。

ヨーロッパでも聖書を読む時に音を伸ばす読み方がありました。それが次第にメロディ重視に移ってゆきました。

音を伸ばすと倍音化してゆき、非日常的な声になります。この母音をあえて重視して発声すると、倍音が発生しやすくなるのです。

祈り、祝詞も非日常的なものであり、上に伸びてゆく傾向があります。ひとつは倍音発声によって、遠方にまで声が届きやすくなるからです。

そして倍音もたらす他への影響があります。

倍音は倍化されていくにつれ、高い周波数の発声となっていくのです。それは波長の短い音声であり、他の体をも貫通し、感覚的には一体感を生じさせます。だからこそ、人間は驚いたり、おびえたりする際の伝達に、母音から来る倍音を自然と選び取るのでしょう。赤ちゃんの泣き声も倍音です。

ここで発声の実演と練習が行わ

れた。

- ア
- イ 一番倍音が出やすい
- ウ 生まれる時の音
- エ いいことがいっぱいある
- オ 宇宙に流れている音

耳に聞こえなくても振動は感ずるはずですよ(今回の参加者に聴覚障がいの方がおり、伊藤氏はその方に向けて「オー」と発声し、感ずることを確かめられた)。

現代は便利さの文化と引き換えに失ったものがあります。共同洗濯場がなくなり、そのため懇談の場が失われました。

白人の顔を見ると悲しみを感じます。

近代は音に支配されており、自己嫌悪に落ちるような音が支配しています。

森の中の落ち葉を踏む音でゆつたりすることが少なくなりました。パソコンの前では情報がなすすぎます。命の音を取り返すことが大事です。

これは簡単にできるのです。たとえば風呂場で倍音を発声するのは。

ここで訓練が行われた。

二人でペアとなり、まず相手に伝わりと感じた音をしばらく発声、次いで相手の反応を聞いた。

発声により、空気もよくなりまます。命の空気になるのです。

アイウエオだけでなくその前から宇宙発生とともに流れている音があります。

練習

アーといいながらその母音を続け時々子音を入れる。それをときれないように続ける

アを続けながらオウエイを続けると母音の神様(ヤハアエ)が現れる

17世紀の教会ではグレゴリー聖歌が歌われ、音楽・ソルフエジオ音階を通じて神とつながっていました。そのソルフエジオ音階が突然人の前から消えました。1990年代にこれを復活したのが米国自然療法医ジョセフ・プレオ博士です。神の愛そのものである528Hzを中心MI(ミ)とするソルフエジュ5和音(表1)を聞くと

音名	読み	周波数	音の意味	対応チャクラ
UT	ウートゥ	396Hz	罪の意識や恐怖の解放	咽喉
RE	レ	417Hz	変化に挑戦する心、知性	胸
MI	ミ	528Hz	無限の可能性、DNAの修復	根
FA	ファ	639Hz	あらゆる人間関係の向上	腹
SOL	ソ	741Hz	問題を解決する力、表現力	胸
LA	ラ	852Hz	直感力、自分の魂を知る	眉間

宇宙時代の幕開けが愛によってなされることか体感できます。私の友人医師土橋重隆氏は528Hzの音が身体と心に影響を与えることを実感しています。今、同医師と音と医学をつなぐことを共同ですすめています。

母音を発声し相手の手を取り認識することで、幸福を感じ、命とつながることで仕事ができるのです。

また私は、マドモアゼル・愛のペンネームで星占いを専門にしています。

ペンネームを使うことで偽善がなくなりま。

星占いは天体の運行と人間の運命とが関係があると考えるもので人間の将来を予測する方法です。

時間には「始まり、継続、変化」の三つの要素があり、自然には「火、地、風、水」の四つの要素があります。

これを組み合わせると3×4＝12通りの変化が意識できます。

和歌について

和歌とは和の歌です。共に歌うことです。

音優位の言語には、生きる者へのコミュニケーションが優先されやすい構造があると思うのです。

そして、そうした言葉によってできたものが和歌です。まさに和の言葉により紡ぎだされた和歌には、他の音声文化にはない特徴が

秘められていると言つてよいでしょう。

和歌を歌うことにより、異質のものへ通じる音が生じ、異質のものも仲良く一体化できる音が生じます。

月、櫻、梅、波などの自然を歌う歌があり、大事な時、恋愛の歌、心が動いた時の歌、死に際しての歌があります。

宮中の歌会始めは、年初にあたって一年の幸せを祈る歌です。いづれも人を幸せにする力があります。

和歌によって思いが伝達されれば、鬼神の心を和らげることも、神へのささげる音になることも、動物や植物に働きかけることもできるはず。

そして何より、異質の人間同士の中に同一の思いが伝わり、これにより、人種の優劣も差異もなくなる世界の現出の可能性が出てくるのです。

和歌を歌うことには限りのない夢があります。

繰り返される四季の訪れも、その年その年で味わいは異なります。それを歌にして詠むことで、共に

生きる喜び、共に在る喜びを私たちが感じ合ひ、響き合つて生きていくことができたなら、時代も世界も変わっていくに違いないのではないのでしょうか。

☆ ☆

母音を主にした日本語の特殊性と日本人の左脳、右脳の働きそれを現した和歌についてお聞きした。これらの特殊性は、絆を強め、平和な世界を創ることに貢献するであらうと思う。

当日の参加者は会員8名、非会員28名、手話通訳3名、合計39名でした。今回のカセットテープは2000円(送料込み)です。事務局(0797・22・6425)まで

(関西日本サイ科学会会長

河野 明夫)

## 2-4) デバイ遮蔽とオーブ

プラズマの中に、点状電荷 (M、+物質) を置く。(+) 電荷なので、自身の電場の為に電子やイオンを引きつけたり、反発したりして、結果として、その周りに (+) 電荷を打ち消す様な式 (2) の分布を造る。

$$\Phi(r) = (q/r) \exp(-r) / (\lambda p) \dots \dots \text{式 (2)}$$

$\Phi(r)$  : クーロンポテンシャル  
 $q$  : 電荷  $r$  : 距離  $\lambda p$  : デバイ長さ

しかし、電子やイオンは熱運動しているので、空間的に一様分布を造ろうとする。これらの2つの運動の釣合いにより、(+) 電荷を遮蔽する空間の分布 (ほぼ円形) がきめられる。両者がバランスした時の、遮蔽距離の特徴的な長さを「デバイ長さ、デバイ遮蔽」という。プラズマの中には正 (+イオン) と負 (-イオン) が太極図状に絡み合うプラズマボールが有り、(+イオン) が (-イオン) よりも大になるものがオーブの核に成るのであろう。オーブがほぼ円形に撮影されるのは、このデバイ遮蔽の効

果の為であり、円の大きさは式 (2) に依存し、オーブ周りのヘイロー (halo) はデバイ遮蔽周りの電子光である、と判断している。

## 2-5) プラズマ振動とオーブ

振り子状に、バランスが保たれているプラズマがある。このプラズマ中の電子分布に粗蜜が生じる場合を想定する。この粗蜜を打ち消すために、振り子に復元力が生じ、生成される静電場によって電子は加速されて動くが、(振り子が) 釣合い点を過ぎると、逆の粗蜜が生じる。そして逆向きの電場になって逆方向に動く。この粗蜜を平坦化するように電子は、逆向きに働く。これらが返されると、振り子が左右にふれる様に、プラズマが振動する。つまり「プラズマ振動」が形成されることになる。詳細は省略するが、オーブの円形の中の非対称のマンダラ模様並びに干渉縞は、このプラズマ振動が、伝達物質 PSI-pair 群の作用の為に、カオスアトラクターに変化・成長した為ではないだろうかと推定し、判断している。

### 本部例会ビデオ映像の 販売開始

これまで会員の皆様からご要望がありました、本部例会のビデオ映像の販売が、4月の新年度から開始されることになりました。ハイビジョン映像・音声ファイル (約3時間) を記録したUSBメモリーでお送りしますので、ほとんどのデスクトップあるいはノート型のウインドウズ・パソコンで見ることが出来ます。

価格 1本につき 三五〇〇円  
(送料含む)

現在は左記の3本です。

◎2013年4月本部例会

講師 大野百合子氏

「宇宙図書館(アカシックレコード)から見た世界の仕組みと私たち—あなたは誰なのか—」

◎2013年5月本部例会

講師 浪平博人氏

「イメージによる瞬間教育」

◎2013年6月本部例会  
講師 松原秀樹氏  
「アレルギーを治す秘訣」

メールまたはFAXで左記に掲載のメールアドレス(またはFAX番号)に、「2013年〇月〇〇〇〇氏ビデオ購入希望」と記して、郵便番号、住所、氏名、電話番号を書いて、御注文願います。  
2週間以内に発送致します。

E-mail office21@psjmail-box.ne.jp  
FAX 047・330・4091

お支払いは、到着後同封の郵便振替用紙で8日以内にお振り込みいただければ、結構です。





写真1 (No.1030)

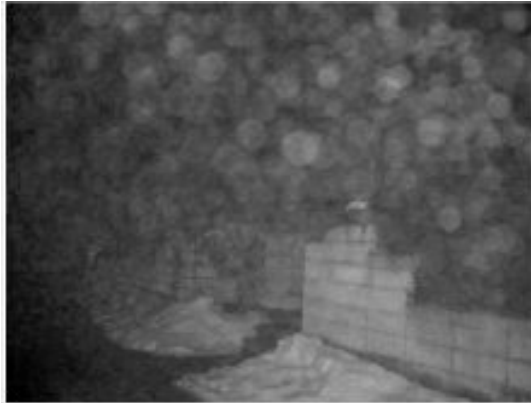


写真2 (No.1730)

中の物質(M)が電離して、

$(M) + (E) \rightarrow M(+イオン) + 電子(-)$   
 ・・・・式(1)

M: 物質    E: エネルギー

になる。これをプラズマという。つまり、空気を電離するとプラズマになる。プラズマは、正(+ )の電荷を持つ粒子と負(-)の電荷を持つ粒子の集合体である。

## 2-2) プラズマの性質

既知のプラズマの性質のうち、本稿に関係があると思われるものを選んで述べる。(1) プラズマは電荷を持った粒子(荷電粒子)の集合体であり、集団的に運動する。(2) プラズマ中の(+ )粒子数と(-)粒子数はほぼ等しいので、全体としては、ほぼ中性である。(3) 集団としての電子やイオンの移動に伴い、プラズマ内に電流が流れる。つまりプラズマには導電性がある。(4) 一つの荷電粒子にたいして、非常に多くの荷電粒子が相互に作用し合っている。これらの結果として、多様性が生じる。(5) プラズマ中の電波の伝送には、縦波(音波)と横波(電磁波)がある。(6) 電子は動きやすいが、イオンは動きにくい。(7) プラズマは、個々の粒子(イオン)や電子の動きと同時に、集団的な振舞いが重要である。(8) プラズマは質量を持っているので、加熱すると、エネルギーが上昇し、電気抵抗は減少する。(9) 熱平衡状態では、プラズマは巨視的には一様であるが、微視的には、密度分布の揺らぎを伴っている。(10) プラズマ中では、(+ )電荷の粒子は、この(+ )イオンの周りに集まる電子(-)によって電

荷が遮蔽される傾向がある。これを「デバイ遮蔽」という。

## 2-3) オーブとプラズマの関係

オーブはプラズマの中の特異例(別種類)として存在している。プラズマは物質なので、科学的な説明が可能である。これに対し、オーブは物と心の2面性を兼ね備えているので、科学的な解明や説明は未知であり、今後の問題である。つまり、プラズマに意識(精神)面が追加された場合の特異例がオーブであると考ええる。したがってオーブが撮影される為には、赤外線領域が撮影出来るデジタルカメラを用いて、プラズマが存在するであろう(薄暗い)空間に向けて、フラッシュ撮影する必要がある。さらに、オーブ(又はサイ・気)はプラズマ中の赤外線領域( $\Delta H=1.38eV$ )に存在しており、未知の存在(S.G.)の助けをかりて、変性意識状態でシャッターを切る場合に出現する様子である。

一例として、プラズマ中のデバイ遮蔽された物質(M)にたいして、撮影者のバイオホトンを放射し(変性意識状態時)、さらにフラッシュ光(1/1000sec)が放射された時に、オーブが形成されて、写ることになる、と推定している。再記すると、無心、リラックス集中して、シャッターを切ると、フラッシュ光と、放出された微細身素粒子(オーラ、バイオフィトン)がPSI-pair群(PSI-spin群)を形成し、これらが物質(M)内のプラズマボール(太極図状の陰イオンと陽イオン)と同調(共鳴、共振)したときに、オーブの核が形成され、オーブが写されるのであろう。



〒271-0047 千葉県松戸市西馬橋幸町41-506 日本サイ科学会発行

電話 047-347-3546 FAX 047-330-4091 E-mail office21@psij.mail-box.ne.jp

公式サイト <http://homepage3.nifty.com/PSIJ/> ML申し込み先 office21@psij.mail-box.ne.jp

## オーブの形成過程(1)

佐々木 茂美

インターネットのサイト等に報告されているオーブ写真の70%以上は偽オーブである、といわれている。本稿では、はじめに一例として、著者が撮影したオーブ(orb)写真、並びに偽オーブ写真を紹介する。つぎに、既知のプラズマとオーブが、どの様な関係にあるかについて、検討し考察することにした。

### 1) オーブ写真の一例

結果の一例を写真1、2に示す。撮影モードを「オート」に選定、フラッシュ撮影している。つまり最適な絞り値とシャッター速度をカメラが自動的に選択する仕組みになっている。次頁の写真1 (No.1030) をみる。2012年春(6月9日土曜日)、八王子市、朝方(3:40頃)、小雨の降り始め時、カメラはCASIO、EX-Z40PC。オーブと思われる写真の一例である。撮影画面の右下にA球がある(一番大きい)。白色発光体で、輪郭は明瞭、ヘイロー(halo)を伴っている。強い白発光が全面を覆っている。明白では無いが、円内部には非対称のマングラ状模様がある様子。フラッシュ光などのエネルギーを受けて、オーブ内原子の電子軌道間の電子移動に基づく緩和エネルギーが発光の原因となり、しかも多くの光が加算されたので、白色になったのであろう。2番目に大きいB球(画面のほぼ真中にある)は、輪郭は明瞭。円内部に非対称の干渉縞状マングラ模様を持っている。3番目に大きいC球は、画面の左上にある。これはB球とほぼ同一であるが、月の裏側とも思えるようなマングラ模様を持っている。また、左中央下にある乳白色状小球オー

ブは、尾を引きながら上昇している。その他大小様々な円形状オーブが写されている。

写真2 (No.1730) をみる。2013年1月22日(火)、福島市、冬の朝方の5:36分、カメラはNIKON、E-2200、積雪のある地面の上に、這う様に濃いモヤが立ちこめていた。撮影画面のほぼ全面に乳白色で均な一大きさ、円形状の偽オーブが写されている。輪郭は不鮮明、円形内部は乳白色で均一、模様は無い。これは、カメラレンズ付近にあった微細なモヤとしての水滴が、フラッシュ光に反射されて写り込んだのであろう。

### 2) プラズマとオーブ

#### 2-1) 空気成分の電離

大気中には、宇宙から降り注いでくる宇宙線によって生成されるイオン(ion)が存在しており、これが地球上に降下してきて、空気中にある $10^{-6} \sim 10^{-3} \text{cm}$ の大きさのエアロゾル(aerosol)に付着して、大球イオンになる。エアロゾルは地球表面付近に多量に存在しているので、地表面の電場は、晴天時の地上で約 $100 \text{V/m}$ 程度(高さ方向)になる。地上では普通は負(-)に帯電している。我々は、この地球表面上で生活を営んでいる訳であるが、居住空間の上に厚い雨雲がやってくると、雲の上側の電位は(+), 下側の電位は(-)に帯電し、そこの地表面の電位は(-)から(+)に変化することになる。雨が降り始めると、雨雲の下の空気の構成成分に電離が起こり、自由電子とイオンが生成される。

たとえば、エネルギーEが与えられて、空気